

音楽

「指導者用デジタル教材」を用いた授業展開例

中学校 第2・3学年上 音楽科 学習指導案

北海道教育大学附属札幌中学校
教諭 山下 彩

題材名

郷土のさまざまな芸能を味わいながら鑑賞しよう（2時間）

題材の ねらい

- 日本各地の郷土に伝わる芸能の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。
- 日本各地の郷土に伝わる芸能の音楽の音色、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や変化を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について考え、郷土の音楽や芸能のよさや美しさを味わって聴く。
- 日本各地の郷土に伝わる芸能の音楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。

本時の ねらい

「鹿踊」と「獅子舞」について、それぞれの音楽的な特徴を理解する。

指導時期

1月下旬

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

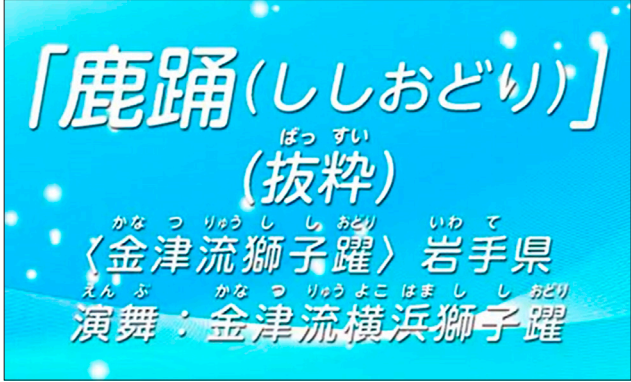
「指導者用デジタル教材」は、生徒の手元にある教科書と同じ見た目のまま、拡大機能や動画・音声の再生機能を備えている。従来の教科書指導を基本としつつ、教師が目立たせたいポイントを拡大したり、口頭説明だけでは感じ取れない音声を短く手軽に再生したりできる。また、生徒は必要に応じて手元の教科書で内容を振り返ることも可能である。このように「指導者用デジタル教材」を導入することで、教師はこれまでの授業実践を無理なくブラッシュアップし、生徒の理解をより一層深める授業づくりができると考えている。

本題材では、現代の生徒にはなじみの薄い郷土芸能を、豊富な写真と共に多種多様に紹介している。「指導者用デジタル教材」では動画・音声をすぐに再生できるため、写真だけでは分からない踊りの動き、楽器の音色、唱歌のリズムなどを、生徒が頭で描いたイメージとすぐに比べて鑑賞することができる。教師が細かいCDなどの機械操作に手間取ることがなく即時的なフィードバックにより、スムーズな授業展開を可能にし、生徒の心理的没入を促す効果もあると考えられる。

第1、2時の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 「指導用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●出身地や田舎の郷土の芸能について、知っていることを共有する。 ●教科書p.58を開き、日本各地の郷土の音楽や芸能について、音声、動画を視聴しながら確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ⑤：お祭りに関わるものが多いんだね。 ⑤：どの地域の音楽も歌い方や使われている楽器は似ているな。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教材」 p.58の画面を生徒に提示し、音声、動画を再生する。 
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●郷土芸能とは、行事の中に伝承されてきた、民間の音楽、舞踊、演劇などの諸芸能のことだと理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ⑤：地域による特色があるんだね。 ●p.58-59の「鹿踊」「獅子舞」の二つに焦点を絞り、探究する。「鹿踊」チームと「獅子舞」チームの二つに分かれ、教科書や学習用端末を利用して、それぞれが担当する芸能の歴史や意義、用いられる楽器や道具を調査し、情報をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●説明する芸能に合わせて、拡大機能を活用する。  <ul style="list-style-type: none"> ●教科書の二次元コードの動画（まなびリンク）を適宜視聴しながら、それぞれの音楽の特徴やよさをチームで協力してまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ⑤：「鹿踊」の太鼓は大きくて、ずっしりした響きが魅力的だ。 ⑤：「獅子舞」の囃子は、特に笛の軽やかな音が獅子舞の踊りを、よりおどけたように見せてくれるね。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●チームで担当した芸能についての説明と、音楽の特徴やよさを伝えるナレーションを作成する。(1～2分程度) 	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●「鹿踊」チームと「獅子舞」チームそれぞれで、演舞動画に合わせて、ナレーションを入れて発表し合い、鑑賞会を行う。 ●感想交流を行う。 ●相手チームの芸能（音楽）について、考えたこと、感じたことをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●まなびリンクにある演舞動画を再生する。 

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

本題材は、教科書でさまざまな郷土の芸能を紹介しているが、一つ一つ鑑賞教材を揃えて準備をすることを考えると手間がかかるものであった。その点「指導者用デジタル教材」を使えば、その手間をほとんどかけずに授業実践ができるように整えられていて、準備時間を格段に短縮することができる。また、操作も手軽なため、授業の導入で生徒の興味や集中力を途切れさせることなく、スムーズに進めることができる。

今回の授業展開では、生徒が「鹿踊」「獅子舞」のどちらかを選択し、選択したものについて、手分けして学習を深めるという形を取ったが、これは教科書の二次元コード（まなびリンク）があるからできることである。生徒が個別で自由に映像を鑑賞し、探究することができて成り立つ授業展開である。さらに、全員が同じ鑑賞教材にアクセスできるため「●●なところがすてき、と友達が言っていた箇所は本当にそうになっていたかな。」など、振り返って確認することも容易に可能である。これは、生徒の主体的な学習にも大きく寄与できるものであると考えている。